▲支部探訪－オホーツク　支部長　濱本　亙

■和をモットーに支部創設

「和をもって会を成すをモットーに」写真の技術を磨こう、そんな合言葉で仲間が集いこの支部を誕生させました。

今から四十五年前一九六十五年、昭和四十年四月厳寒期のオホーツク沿岸は流氷山脈が出来る程の大勢力な流氷時として、四角い太陽が昇る氷海が広がるオホーツクで、現道展審査会員の中川裕治氏が精力的に写真活動している姿に共感した仲間が氏の呼び掛けで道写協の仲間入り、オホーツク支部が誕生、更に湧別町出身の現道展審査会員、志賀芳彦氏を講師にお願いして作品制作に研鑽して今日に至った吾が支部であります。

支部・写真講評指導風景

■技術向上を目指して

例会は町文化センターで毎月第二、四金曜日に作品のスライド上映やプリントの品評、研究、デジタル化にともない操作や撮影技術の向上を積極的に行っています。

会員数は九名(女一名・男八名)支部会費は年五千円で会場・通信費・懇親会費に使用しています。会員は少数ですが写真好きな方でないと永続きしないので無理をせず仲間意識を大切にしています。

支部懇親会風景

作品展は年三回町文化センター内ギャラリーで多くの来館者で賑わいます。特に町民文化祭に協賛、地域文化向上に貢献しています。撮影行きなど仲間に声を掛け合い楽しく写真感性の向上に努め、愛着の増幅を計っています。単に技術の追求に終わるのでなく和を大切に親睦会では春は毛蟹で秋は鮭鍋と恒例になり実施しています。

会員活動実積として二〇〇六年山本康雄氏が道展審査会員に、二〇〇九年伊藤三郎氏が道展会友に推挙され活躍中で、他の会員の入選も毎回あり後に続けと頑張っています。

良き指導者に恵まれ、頑張り屋の仲間に囲まれ、写真道展を励みに更なる写真上達に邁進活動する意気込みを全員で確認しているところです。今後共北海道写真協会の一支部としてメンバーの要望、意見を取り入れ楽しい支部にして参りたいと思いますので何とぞよろしくご指導をお願い致します。

写真展を終えて

■斎藤　優子 写真展「イタリアの印象」

会　期　二〇一〇年七月十六～二十六日
会　場　栗山図書館ギャラリー

初めての個展を道写協栗山支部主催で開催。A4・A3サイズ、カラー四十点、今年三月イタリアを旅行した時の作品です。初めて見るイタリアは、歴史ある町並みで町中に彫刻が溢れ、建物の中では天井画を始めとする絵画にただただ感動しました。

魚眼レンズから覗いた景色はイタリアの素晴らしさを引き出してくれたと思います。観覧に来られた方々には、イタリアへ出掛けてみたいと思うきっかけになったのではと、思いました。

事務局便り

写真道展審査基準の周知方

◎撮影場所について

作品応募規定に、撮影地を道内と限定しているのは、第二部の観光・産業部門だけでありますが、今年度の支部長会議では、第一部、第三部についても道内に限定されているような疑問が多く寄せられました。

これまで写真道展の性格上、道内が望ましいような議論がされた経緯はありますが、このことが出品者の誤解を生じたものと思います。改めて第一部の撮影地については、道内は勿論、道外、海外作品についても応募可能である事を周知徹底方お願いいたします。

◎第三部人工物の取り扱い

建物、人工物、人間などが映っている風景写真については、原則として除外とし、取り扱ってきましたが、風景写真の一部添景としての人物、工作物の入った作品についても審査対象としていくこととといたします。

第六十回写真道展に向けて――記念事業実行委員会の発足

平成二十五年に写真道展が六十年の節目を迎えるにあたり、「道展の歴史を確認し、その実積を内外に知らせること」を趣旨として、十一月十二日、記念事業実行委員会が発足いたしました。委員長には志賀芳彦審査会員が選出されました。専門部会も設置され、今後具体的事業の計画が検討されていくこととなりました。事業が決まり次第、会報等で随時ご案内いたします。

(文責)道展審査係　本郷　正利